

TOKYO iCDC

Tokyo Center for Infectious Diseases Prevention and Control

感染症危機への東京発の新たな挑戦
一都の新型コロナ対策を支える専門家の力ー

Review of Tokyo iCDC Activities from October 1, 2020

東京 i C D C（東京感染症対策センター）について



2020

6月: 小池都知事が知事選の公約として、東京版CDCの創設を掲げる

7月: 東京版C D C構想（素案）策定（9月に「東京iCDC構想」策定）

8月: 東京版CDC準備検討委員会を設置し、賀来満夫先生が委員長に就任

10月: 東京iCDC発足。東京版CDC準備検討委員会を東京iCDC運営委員会に改組

10月: 東京iCDC専門家ボード (賀来座長)、健康危機管理対策本部、感染対策支援チーム発足。

2022

7月: 健康危機管理体制を強化するため、賀来座長が東京 i C D C所長に就任

東京iCDCと関係機関等との関係（イメージ）



東京iCDCの核となる「専門家ボード」の設置

iCDC専門家ボード

東京iCDCによるエビデンスに基づく助言や、国内外の自治体・研究機関等とのネットワーク構築の中心的な役割を担っているのがiCDC専門家ボード。このボードには、専門分野ごとのチームを設置し、**50名を超える専門家に参画**いただいている。

チームは、令和2年（2020年）10月の東京iCDC立ち上げ時に「**疫学・公衆衛生チーム**」「**感染症診療チーム**」「**検査・診断チーム**」「**リスクコミュニケーションチーム**」の4チームを設置。同年12月に「**感染制御チーム**」、令和3年（2021年）1月に「**微生物解析チーム**」「**研究開発チーム**」を、同年3月に「**人材育成チーム**」を設置。

令和3年（2021年）4月に、8チーム体制で東京iCDCの運用を本格的に開始。その後、令和4年（2022年）10月に「**情報マネジメントチーム**」を設置し、現在の9チーム体制となっている。なお、東京iCDC専門家ボードが、調査・研究する事項に関して、客観的な立場から知見を活かした助言をいただく6名の外部アドバイザーを選任している。

iCDC専門家ボード(各チームのミッション)

疫学・公衆衛生チーム

疫学調査に基づく感染リスクの分析評価を行い、感染状況や将来予測などを踏まえた助言を実施

感染症診療チーム

症例の解析と効果的な感染症診療の検討
新たな治療法の評価、後遺症対応等も検討を実施

検査・診断チーム

検査・診断手法の評価分析と、新たな検査・診断手法の確立などの充実に向けた検討を実施

リスクコミュニケーションチーム

広報・広聴など双方向性の情報共有に基づく感染症対策の検討とともに、幅広いリスクコミュニケーション活動について助言を実施

感染制御チーム

最新の科学的な知見から、場面に応じた感染制御に係る効果的な対策の検討やマニュアル策定等の検討を実施

微生物解析チーム

感染症の伝播性・病原性・遺伝子変化などについての評価・解析、ワクチンや治療薬などについての情報収集を実施

研究開発チーム

基礎的・臨床的研究の進展・開発など、幅広い分野・領域での情報収集、都における知見の応用・実践等の検討を実施

人材育成チーム

都内における感染症対策を担う人材の研修・育成プログラムの充実を図るための検討を実施

情報マネジメントチーム

感染症に関する情報の収集、管理、活用といったデータマネジメントの在り方について検討を実施

東京 i C D C 専門家ボード チーム会議 メンバー

座長 賀来 満夫 氏 (聖マリアンナ医科大学特任教授、東北医科薬科大学客員教授・名誉教授 東北大学名誉教授、東京iCDC所長)

※ 令和6年(2024年)10月1日時点 ※ 役職は省略
※ 各チームの先頭はチームリーダー、以下五十音順

疫学・公衆衛生チーム

中島 一敏	氏 (大東文化大学)	杉下 由行	氏 (墨田区保健所)
鈴木 基	氏 (国立感染症研究所)	谷口 清州	氏 (国立病院機構 三重病院)
中坪 直樹	氏 (杉並保健所)	西浦 博	氏 (京都大学大学院)
西田 淳志	氏 (東京都医学総合研究所)		

感染症診療チーム

大曲 貴夫	氏 (国立国際医療研究センター)	石田 直	氏 (倉敷中央病院)
今村 顕史	氏 (東京都立駒込病院)	永井 英明	氏 (国立病院機構東京病院)
四柳 宏	氏 (東京大学医科学研究所)	渡部 裕之	氏 (西多摩保健所)
渡邊 愛可	氏 (新宿区保健所)		

検査・診断チーム

宮地 勇人	氏 (新渡戸文化短期大学)	石井 良和	氏 (東北大学大学院/ 広島大学 IDEC 国際連携機構)
貞升 健志	氏 (東京都健康安全研究センター)	西塚 至	氏 (東京都保健医療局)
三鴨 廣繁	氏 (愛知医科大学大学院)	柳原 克紀	氏 (長崎大学大学院)

リスクコミュニケーションチーム

奈良由美子	氏 (放送大学)	石原美千代	氏 (新宿区保健所)
小坂 健	氏 (東北大学大学院)	田中 幹人	氏 (早稲田大学政治経済学術院)
成田 友代	氏 (東京都保健医療局)	武藤 香織	氏 (東京大学医科学研究所)

感染制御チーム

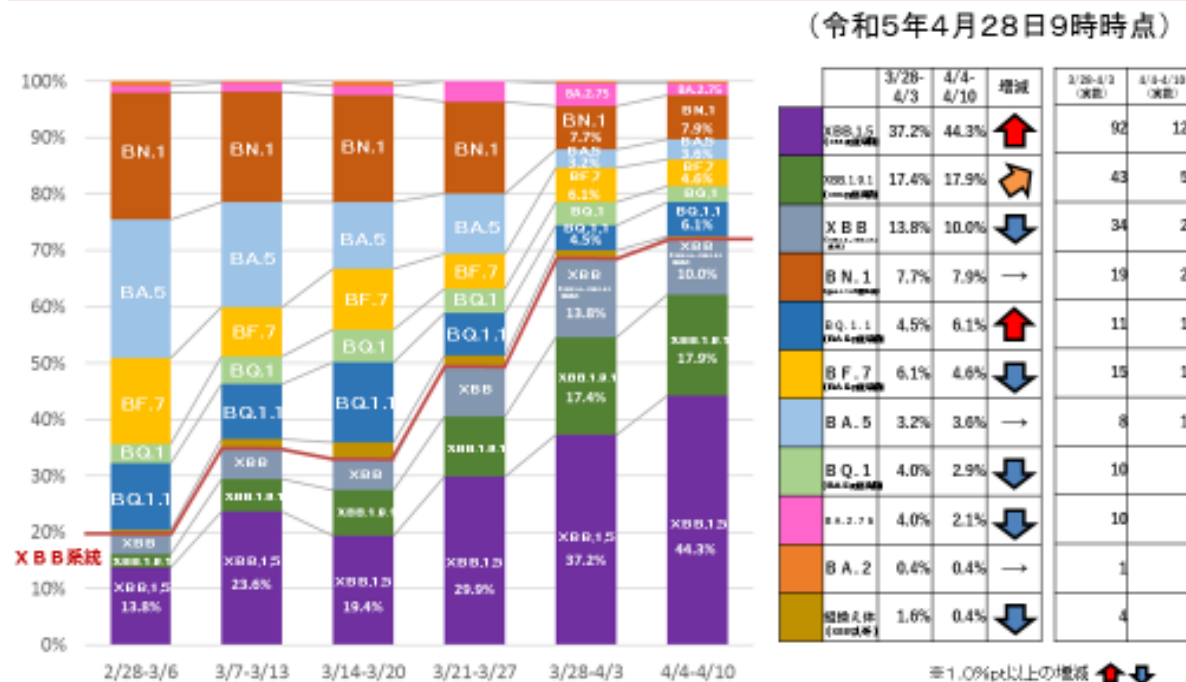
松本 哲哉	氏 (国際医療福祉大学)	金光 敬二	氏 (東北大学大学院)
國島 広之	氏 (聖マリアンナ医科大学)	具 芳明	氏 (東京科学大学大学院)
菅原えりさ	氏 (東京医療保健大学大学院)	光武耕太郎	氏 (埼玉医科大学)
村上邦仁子	氏 (西多摩保健所)	吉川 徹	氏 (労働安全衛生総合研究所)
渡部 ゆう	氏 (東京都保健医療局)		

微生物解析チーム			
長谷川秀樹	氏 (国立感染症研究所)	片山和彦	氏 (北里大学)
小原道法	氏 (都医学総合研究所)	貞升健志	氏 (東京都健康安全研究センター)
佐藤佳	氏 (東京大学医科学研究所)	松山州徳	氏 (国立感染症研究所)
森田公一	氏 (長崎大学)	吉村和久	氏 (東京都健康安全研究センター)
渡部ゆう	氏 (東京都保健医療局)		
研究開発チーム			
大毛宏喜	氏 (広島大学病院)	井上豪	氏 (大阪大学大学院)
井元清哉	氏 (東京大学医科学研究所)	掛屋弘	氏 (大阪公立大学大学院)
鈴木忠樹	氏 (国立感染症研究所)	西塚至	氏 (東京都保健医療局)
宮田裕章	氏 (慶應義塾大学)	矢野寿一	氏 (奈良県立医科大学)
吉村和久	氏 (東京都健康安全研究センター)		
人材育成チーム			
加來浩器	氏 (防衛医科大学校)	泉川公一	氏 (長崎大学大学院)
小竹桃子	氏 (東京都保健医療局)	渋谷智恵	氏 (日本看護協会)
高橋聡	氏 (札幌医科大学)	竹村弘	氏 (聖マリアンナ医科大学)
朝野和典	氏 (大阪健康安全基盤研究所)	中村茂樹	氏 (東京医科大学)
村田ゆかり	氏 (東京都健康安全研究センター)		
情報マネジメントチーム			
高橋邦彦	氏 (東京科学大学)	大曲貴夫	氏 (国立国際医療研究センター)
神垣太郎	氏 (国立感染症研究所)	齋藤智也	氏 (国立感染症研究所)
矢澤知子	氏 (東京科学大学大学院)	安岡圭子	氏 (多摩府中保健所)
吉田眞紀子	氏 (東北医科薬科大学)	渡瀬博俊	氏 (中央区保健所)
外部アドバイザー			
河岡義裕	氏 (国立国際医療研究センター)	舘田一博	氏 (東邦大学)
田中耕一	氏 (島津製作所)	宮坂昌之	氏 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター)
脇田隆宇	氏 (国立感染症研究所)	Michael Bell	氏 (米国CDC)

ゲノム解析の実施

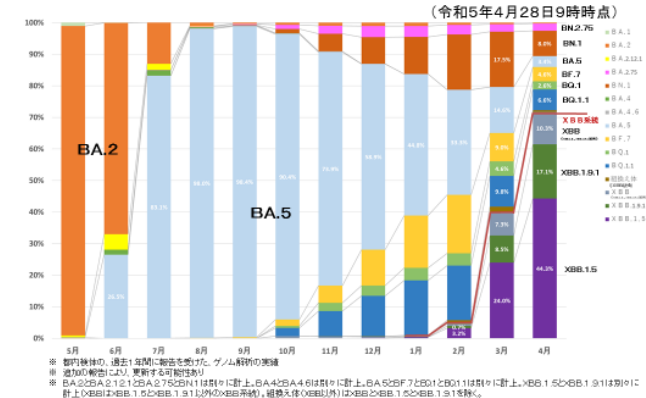
- 新型コロナウイルスも一般的なウイルス同様に増殖や感染を繰り返す中で変異
- これまで、令和2年（2020年）9月に英国で発生が確認されたアルファ株以降、令和6年（2024年）4月現在、感染の主体はオミクロン株となり、さらにオミクロン株は、多くの亜系統に派生
- 都では、東京都健康安全研究センターや民間検査機関等においてゲノム解析を行っており、その結果をモニタリング会議（5類移行まで）、HP掲載により公表

ゲノム解析結果の推移（週別）



※ 報告数体の、過去の週に報告を受けた、ゲノム解析の実績（速報）
 ※ 追加の報告により、更新する可能性あり
 ※ BA.2とBA.2.12.1とBA.2.75とBN.1は別々に計上、BA.4とBA.4.6は別々に計上、BA.5とBF.7とBQ.1とBQ.1.1は別々に計上、XBB.1.5とXBB.1.9.1は別々に計上、XBB.1.5とXBB.1.9.1以外のXBB系統、組換え体（XBB以外）はXBBとXBB.1.5とXBB.1.9.1を除く。

ゲノム解析結果の推移（月別）



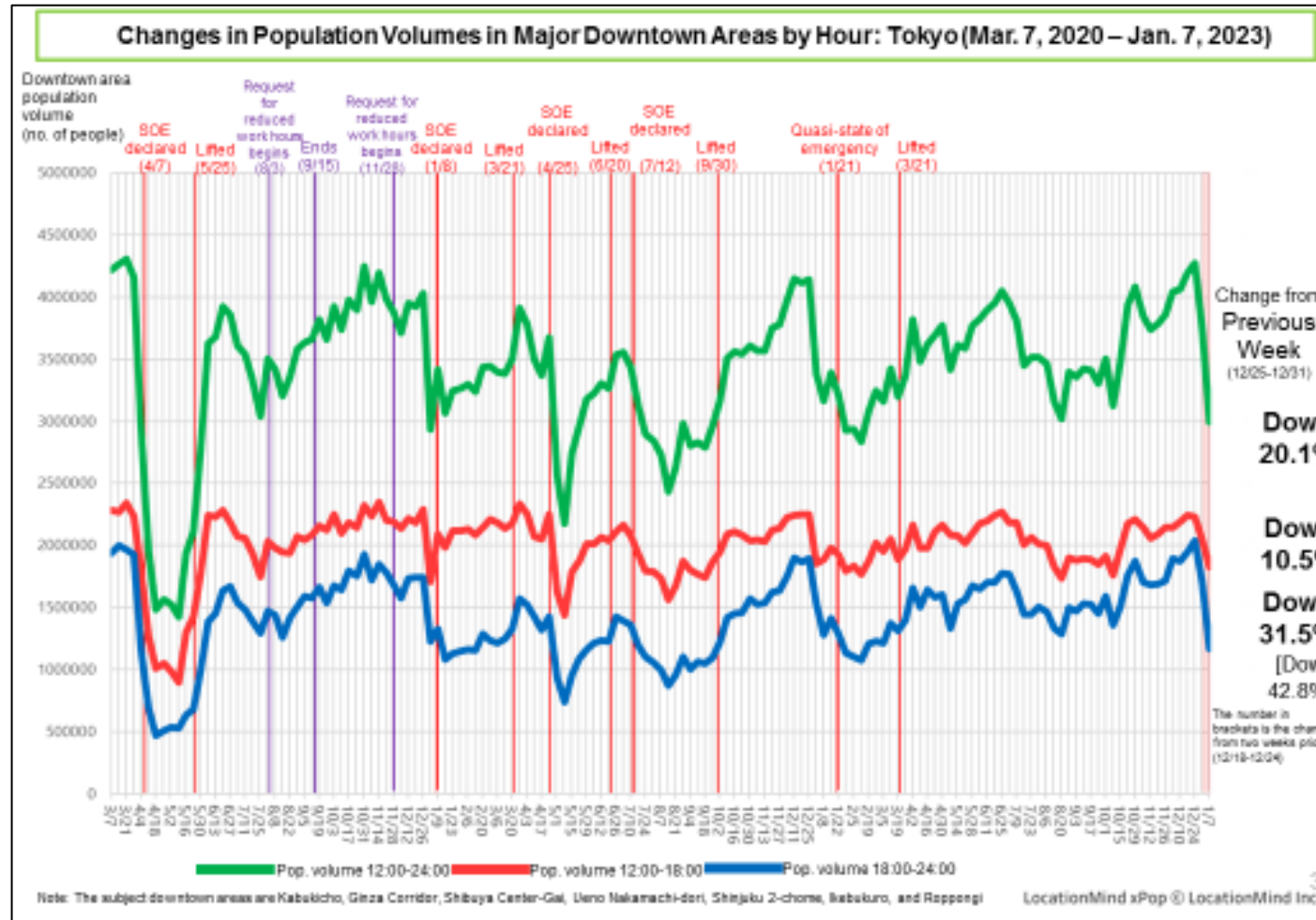
ゲノム解析結果について（月別内訳）

（令和5年4月28日9時時点）

系統	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年1月	2月	3月	4月
オミクロン株（BA.1）	53	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オミクロン株（BA.2）	4,911	2,893	4,558	214	68	78	206	299	158	19	6	1
オミクロン株（BA.2.12.1）	29	213	693	49	7	0	0	0	0	0	0	0
オミクロン株（BA.2.75）	0	0	24	45	70	140	551	1,019	517	85	32	8
オミクロン株（BA.4）	0	0	0	0	11	141	1,188	2,433	1,763	494	231	28
オミクロン株（BA.4.6）	0	70	601	75	40	2	0	0	0	0	0	0
オミクロン株（BA.5）	0	0	23	32	37	36	68	23	1	0	0	0
オミクロン株（BA.5.2）	8	1,144	29,135	21,587	19,044	9,787	15,679	16,987	6,717	938	193	12
オミクロン株（BA.5.2.1）	0	0	10	30	56	217	1,186	3,279	2,482	520	119	15
オミクロン株（BA.5.2.1.1）	0	0	0	0	5	72	550	946	587	110	61	9
オミクロン株（BA.5.2.1.1.1）	0	0	0	0	5	278	1,719	3,698	2,618	688	129	23
オミクロン株（BA.5.2.1.1.1.1）	0	0	0	0	1	78	126	115	36	19	96	36
オミクロン株（BA.5.2.1.1.1.1.1）	0	0	0	0	0	0	25	55	90	317	155	36
オミクロン株（BA.5.2.1.1.1.1.1.1）	0	0	0	0	0	0	0	1	20	113	153	6
報告数不明	8	0	0	0	0	0	14	36	43	32	25	2
計	5,009	4,321	35,045	22,032	19,344	10,829	21,487	28,960	14,978	2,815	1,322	350
新規報告数（報告日別）	101,664	58,556	567,728	757,621	244,023	100,143	257,031	462,603	279,887	47,190	23,072	—
割合	4.9%	7.4%	6.2%	2.9%	7.9%	10.8%	8.4%	6.2%	5.4%	6.0%	5.7%	—

都内繁華街夜間滞留人口モニタリング

■ 都内主要繁華街のレジャー目的の夜間滞留人口の推移が、その後の新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数及び実効再生産数の推移と関連することを明らかにした。



※ From Tokyo Metropolitan COVID-19 Monitoring Materials on Jan. 12, 2023

新型コロナウイルス感染症自宅療養者向けハンドブック

- 新型コロナと診断された方及び同居の方に向けた、自宅療養期間中、安心して過ごしていただくためのハンドブック
- オミクロン株の特性を踏まえ、換気対策の追記など随時改訂（令和6年（2024年）4月時点第3版）

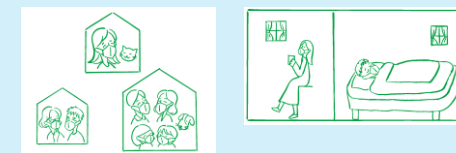
https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/corona_portal/shien/zitakuryouyouhandbook.html

※ 第1版：令和3年（2021年）1月21日 第2版：令和3年（2021年）9月14日 第3版：令和4年（2022年）1月20日



<主な内容>

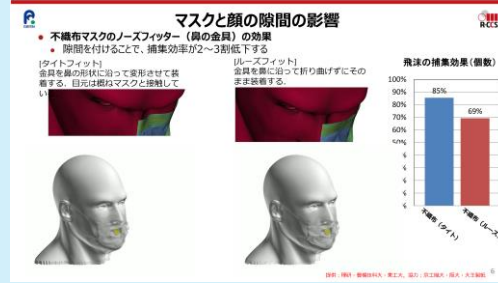
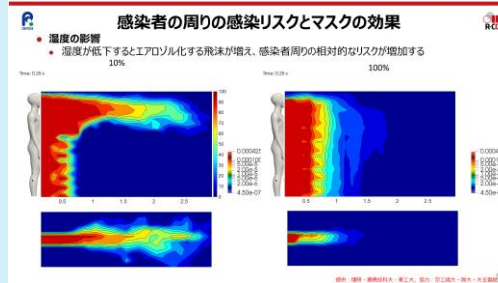
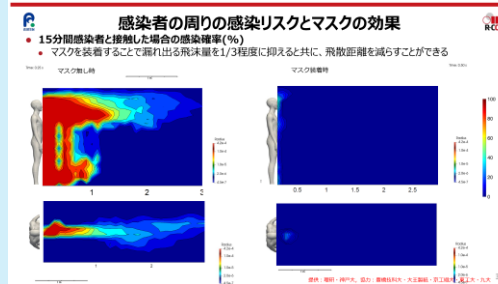
- 新型コロナウイルス感染症と診断された方へ・同居の方へ
- 新型コロナウイルス感染症の特徴
- 自宅療養中に守ること
- 自宅での感染予防 8つのポイント
 - ① 部屋を分けましょう
 - ② 感染者の世話をする人はできるだけ限られた方に
 - ③ 感染者・同居者は、どちらも正しくマスクをつけましょう
 - ④ 感染者・同居者は、こまめに手を洗いましょう
 - ⑤ こまめに換気をしましょう
 - ⑥ 手がよく触れる共用部分をそうじ・消毒しましょう
 - ⑦ 汚れたりネン、衣服を洗濯しましょう
 - ⑧ ゴミは密閉して捨てましょう
- 感染力の強い変異株に関する留意点（オミクロン株含む）



感染拡大抑止のための「富岳」飛沫シミュレーション

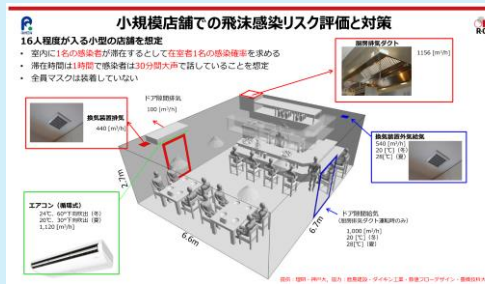
- 理化学研究所のスーパーコンピューター「富岳」を使って、第8波に向けた感染拡大抑止に有用な飛沫シミュレーション（マスクの効果や、小規模店舗・公共交通機関・宴会場等におけるリスク低減対策等）を実施。2022年12月1日開催のモニタリング会議で報告。

【マスクの効果】

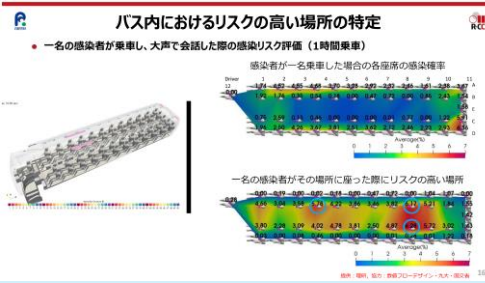


【小規模店舗・公共交通機関・宴会場等におけるリスク低減対策等】

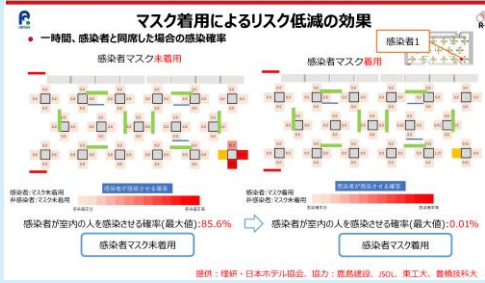
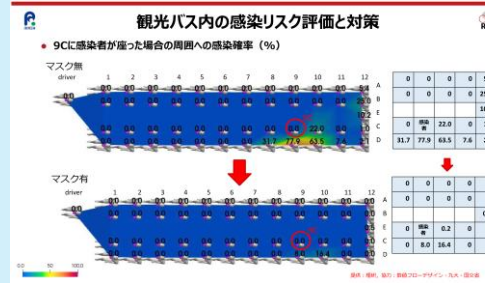
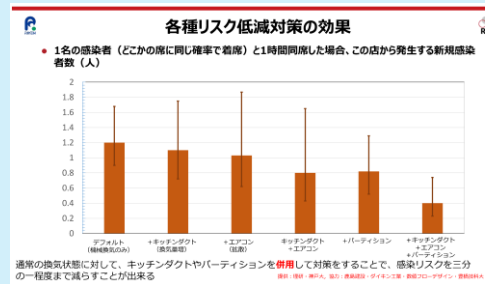
● 小規模店舗



● 交通機関



● 宴会場



※ 第108回モニタリング
分析会資料より

都民意識調査

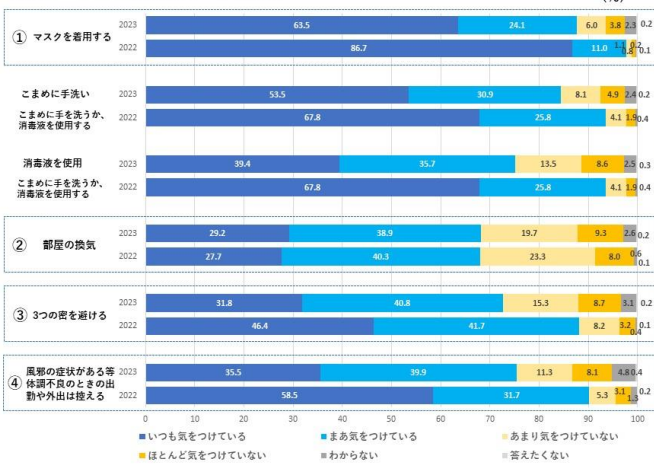
東京iCDCリスコミチームによる 都民アンケート調査結果（2023年2月実施） 2023. 3. 16

- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象：東京都に住所を有する20代から70代までの者
- サンプル方法およびサンプル数：
 - ・ 性別・年齢構成・居住地を東京都の人口比率に合わせた割合抽出
 - ・ **10,429 サンプル**
- 調査期間：2023年2月15日（水）～2月21日（火）……1週間
- 調査項目：
 - 新型コロナに関する気持ちや経験
 - 新型コロナについての備え
 - 類型変更後（5月8日以降）の行動・感染対策
 - 今後のマスク着用意向・理由、基本的感染対策 など

1

新型コロナの対策について、現在（2月中旬時点）のあなたにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

（2023年：n=10,429）（2022年：n=10,000）



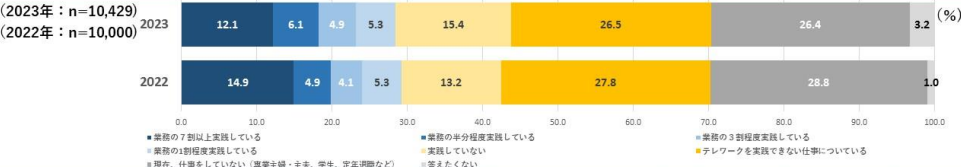
新型コロナの流行から約3年が経過し、5類への移行が示された後の2023年2月中旬時点においても、多くの都民が感染防止対策に気をつけていることが伺える。

- ①「マスクを着用する」については、「いつも/まあ気をつけている」と回答した割合は約90%となっている。なお「いつも気をつけている」の割合は、昨年3月の調査結果と比較すると約20%減少。
- ②「部屋の換気」については、「いつも/まあ気をつけている」と回答した割合は約70%と昨年3月の調査結果と同程度。
- ③「3つの密を避ける」については、「いつも/まあ気をつけている」と回答した割合は約70%となっている。なお「いつも気をつけている」の割合は昨年3月の調査結果と比較すると約15%減少。
- ④「体調不良のときの出勤や外出は控える」については、「いつも/まあ気をつけている」と回答した割合は約75%。なお「いつも気をつけている」の割合は昨年3月の調査結果と比較すると約20%減少。

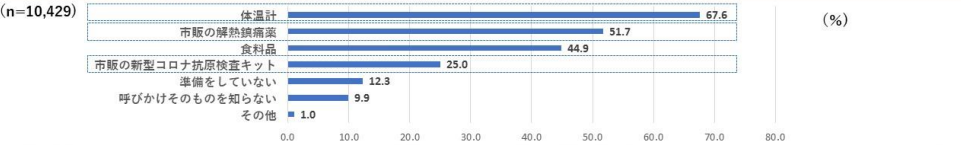
3

お仕事をされている方で、この1ヶ月、あなたは、テレワークをどれくらい実践しましたか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。

（2023年：n=10,429）
（2022年：n=10,000）



東京都では、新型コロナウイルス感染症に備え、検査キット、薬、食料品などの準備をしておくよう、呼びかけをしています。ご自身で準備しているもの全てを選んで下さい。



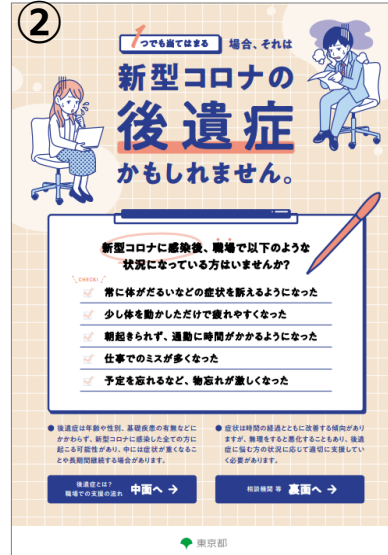
- ◆ テレワークを実践（調査実施時点）している人は約30%であり、昨年3月調査結果と同程度。（ただし、「テレワークを実践できない仕事について」、「現在、仕事をしていない」人の回答割合を除いた場合は約60%）
- ◆ 新型コロナウイルス感染症への備えとしては、「体温計」を準備している人の割合が約70%、「市販の解熱鎮痛剤」を準備している人の割合が約50%。また、「市販の新型コロナウイルス抗原検査キット」を準備している人の割合は25%。

4

新型コロナの後遺症への対応

リーフレット

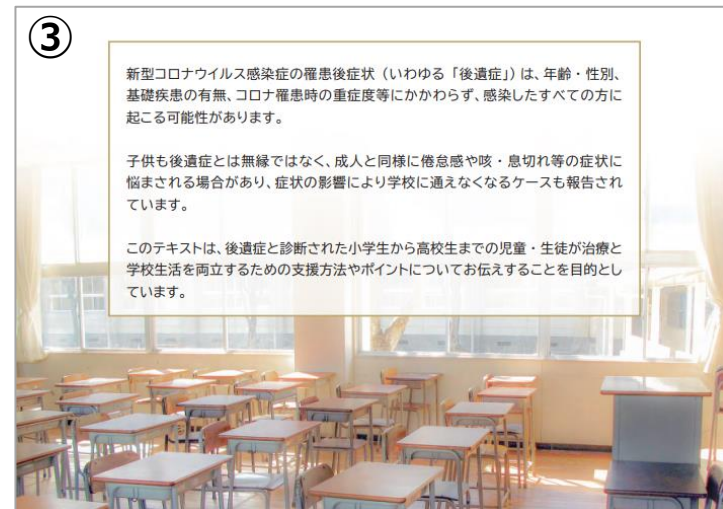
オンラインセミナー（2022年7月より年4回開催）



- ① 一般都民向け（2022年9月）
- ② 企業向け（2023年6月）
- ③ 教師向け（2023年9月）
- ④ 保護者向け（2023年9月）



新型コロナ後遺症ポータル（スマホVer）



東京iCDCフォーラム

■ 都民の方が感染症への関心を高めるきっかけとし、将来の感染症危機への備えにつなげるほか、医療従事者等の感染症対策関係者に向けて、東京iCDCの活動・研究内容等の情報発信の場として、2023年度より開催

■ 2024年度は、1日目（都民向け）は感染症と災害をテーマとし、能登半島地震の際に被災地支援を行った専門家から被災地の感染対策等について講演、ディスカッションを実施。

■ 2日目（感染症対策関係者向け）は、「ネクストパンデミック」・「ワンヘルス」と現在注目を集めているテーマで座談会を実施

都民を感染症から守る

東京iCDCフォーラム

会場 東京都庁第一本庁舎 5 階大会議場
オンライン参加も可

参加費無料
事前申込制

令和7年(2025年)

2.1 1日目

対象者 都内在住 / 在勤 / 在学の方など

開催時間 13:30～16:00 (開場13:00)

定員 会場 300名 (応募者多数の場合は抽選)

テーマ 感染症 × 災害
～災害時に健康と生命を守るための感染症対策～

プログラム

- 講演 専門家にお話をいただきます。
① 災害と感染症
② 災害時における対応
③ 被災地支援の実際
- 武田 真一氏による講演

被災地の感染対策支援物資を体験できる
展示コーナーがあります。

司会 賀来 清夫氏
東京iCDC 所長

武田 真一氏
フューチャリーダー

2.2 2日目

対象者 保健医療関係者、高齢者施設等関係者、研究者、
公衆衛生関係者、感染対策に関心のある方

開催時間 13:30～17:30 (開場13:00)

プログラム

- 座談会
① ネクストパンデミック ② ワンヘルス
- 討論会
感染症対策における連携や今後の展望について
(米CDC東アジア太平洋地域事務所、国立国際医療研究センター(令和7年4月、JHSへ組織改組)、東京iCDC)

プログラムの詳細と参加申込はこちら
申込締切：令和7年1月31日(金)17:00

東京iCDCフォーラム 検索

<https://www.hoken-kyo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/taijaku/iCDC/forforum2025>

東京都



東京iCDCの今後の取組

今後の取組の3つの柱

インテリジェンス 機能の強化



調査・分析
情報管理

都市、機関
へ訪問

調査・分析体制やネットワークの拡充

- ▶ 保健所や健康安全研究センター、都立病院機構等との連携促進
- ▶ 人的・組織的ネットワークの充実化
(WHO、米国CDC、ECDCへの訪問、学会や国際会議等で都の取組を発信)

都の効果的な 感染症対策の 実施を支援



未知の感染症
への備え

人材育成の
推進

東京iCDCの活動を新型コロナから 感染症全般へ拡大

- ▶ 未知の感染症への備えを強化
(動物由来感染症の予防・探知・治療等の対策について検討)
- ▶ 感染症医療人材の確保・育成を推進

社会全体の感染症 対応力を向上



予防計画
TOKYO強靱化

地域社会

社会全体の感染症対応力の向上

- ▶ 都の中長期的な計画への助言
- ▶ 地域社会での感染症対応力を向上させるため、住民等への感染症に係る普及啓発活動等を実施



東京iCDC HP
(English)



東京都政策企画局
コロナ時の都の取組み
HP
(English)

ご清聴ありがとうございました！